

広報 すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

8/15
令和4年(2022年)
No.2335

今号は区内全世帯に
配布しています

今号は、新型コロナウイルス
感染症関連情報をまとめてお知
らせするため、区内全世帯に配
布しています。

6・7ページの間にある別冊を
ご覧ください。

※全戸配布に関する問い合わせは、12面をご覧
ください。



特集

人
すぎなみピト

東京高円寺阿波おどり演劇「高円寺が踊る」

脚本家

公募区民キャスト

池亀三太 伊藤嘉信・木田七海

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> 📄 発行: 杉並区 📁 編集: 広報課

お知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、本紙掲載の催し等が変更・延期または中止になる場合があります。
最新情報は、区ホームページまたは区(地震・水防情報等)ツイッターをご確認ください。

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。





すぎなみピト
interview

東京高円寺阿波おどり演劇
「高円寺が踊る」

区制施行90周年記念事業の一つとして、10月に座・高円寺で東京高円寺阿波おどり演劇「高円寺が踊る」を上演します。夏の風物詩として行われている「東京高円寺阿波おどり」の史実を、公募区民オーディションで選ばれた出演者と共に演劇で描きます。

©東京高円寺阿波おどり

脚本家：池亀三太

阿波おどりと共に生きた、それぞれの人生を描きたい



ぜひたくさんの人に
見てもらいたいです！

池亀三太

プロフィール：池亀三太（いけがめ・さんた） 脚本家・劇作家・演出家。昭和61年佐賀県生まれ。芸人を目指して上京後、裏方として創作物に土台から関わりたいという思いで脚本家に転向。平成18年より演劇活動を本格的に始め、平成31年に劇団「マチルダアパルトマン」を結成。劇団の活動を中心にドラマの脚本等も手掛ける。人の生活に焦点を当てた物語を得意としている。

—演劇のテーマが「東京高円寺阿波おどり」と聞いた時はどう思いましたか？

「阿波おどり」と「演劇」がどう融合するのか、当初はすぐにイメージが湧きませんでした。でも、双方とも表現で魅せるジャンル。きっと共通する部分はあるだろうし、融合することで新しいものが生まれる予感もしました。僕は以前少しだけ高円寺に住んでいたことがあり、阿波おどりの存在は知っていたんです。すごく盛り上がり、人を惹きつけるものだと聞いていましたが、実際にどのようなものは理解していなかった。なぜそこまで人を魅了するのか、その理由を探りたいという気持ちにも突き動かされました。

—創作に際して、どのようにイメージを膨らませていったのですか？

まず資料を大量に読み込み、それから東京高円寺阿波おどり振興協会をはじめさまざまな方に話を聞きました。すると、歴史の中の出来事一つ一つに、時代ごとの人々の生活、ドラマ、思いがあることが見えてきた。同時に、東京高円寺阿波おどりというものが、たくさんの方の熱量や努力で築かれてきた面は当然あるけれど、ポイントとなっているのは意外にも「偶然」の出会いや事象だったりすることが分かってきて興味深かったです。

—どんなストーリーの作品か、少しご紹介いただけますか？

東京高円寺阿波おどりに代々参加してきた、4世代にわたる一つの家族を軸とした物語です。時代の移り変わりとともに、親子の関係、家族の捉

え方、阿波おどりとの関わり方も変化してきたこと。どの時代でも、彼らはみんな自分の人生を生きて、それぞれのターニングポイントに寄り添う形で阿波おどりが存在していたこと。そんな要素を盛り込んだストーリーになっています。

—物語を作る上で大切にしたのはどのようなことですか？

史実をただ伝えるだけでなく、「そこに暮らす人々の生活」をしっかりと切り取り、伝えることです。4世代にわたる話ですから、当然僕自身が生きたことのない時代も物語に入ります。そういった時代の空気感を表現するのは難しい作業ではありましたが、さまざまな方に協力していただきながら当時の空気を読み取っていきました。

—池亀さんが考える演劇の魅力とは何でしょうか？

演劇の最大の魅力は、やはり「生物（なまもの）である」ことだと思っています。今、そこに人が立ち、その場でちゃんと人の感情が動き、時間とともに変化していく。それは生物だから叶うことです。だからこそ、僕は脚本をじっくり決めすぎず、役者さんに瞬間瞬間を委ねている部分も少なくありません。脚本の余白を役者さんと共につくっていく、役者さんの心の中で役を育ててもらいたいようなイメージです。

—今回の作品は、公募区民の皆さんが役者として舞台上立ちます。

このような経験はとても貴重で、純粋に楽しみです。オーディションの選考に僕も立ち合いましたが、演技自体が初めてという人も多かったので、その人からにじみ出る生活感やキャラクター性をポイントに選考しました。結果的にいろんな世代の人が役者としてそろったので、彼らの人生、彼らの生活感をそのまま役柄に合わせ、舞台上に乗せていければと考えています。それぞれが持つ個性が輝くような演出になるといいなと思っています。

—今回の作品が、見る人にとってどんな作品になることを期待しますか？

この数年間、コロナ禍で東京高円寺阿波おどりも従来の活動ができず、消化しきれない思いもあるかもしれません。そんな中、毎年東京高円寺阿波おどりを楽しみにしていた人たちが今回の舞台を見て、「また阿波おどりを踊りたい！」「見に行きたい！」といった衝動、エネルギーを得ることに期待しています。そして、見た人それぞれが自分自身の人生と物語を重ね合わせ、思い思いの何かを持ち帰ってもらえたらうれしいです。高円寺を愛する人はもちろん、阿波おどりの熱狂に取りつかれた人にも楽しんでもらえる作品です。誰もが共感できる人生のいろんなものが詰め込まれていますので、ぜひ劇場で味わってください。

公募区民：伊藤嘉信

踊りもセリフも、しっかりと自分のものにしていきたい

—今回の事業に応募したのはなぜですか？

定年退職した後に、自分が暮らす杉並で地域に関わっていける活動を探したいと数年前から考えていました。最初の地域活動は、妻に「やってみたら？」と勧められて気軽に応募した座・高円寺での演劇ワークショップ。僕自身もともと座・高円寺がとても好きだったし、地域で文化的なことや社会的なことに携わっていきたくかったので、とても良い機会でした。そのワークショップでは俳優の木野花さんの指導を直接受けることができ、刺激的ですごい体験ができたんです。その後も何度か参加し、演じることの面白さに目覚めていたこともあり、今回の公募の話聞いてぜひ参加したいと思いました。

伊藤嘉信



プロフィール：伊藤嘉信（いとう・よしお） 昭和37年愛知県生まれ。今春に広告デザイン制作関連の会社を定年退職。数年前より座・高円寺での演劇ワークショップをはじめ、さまざまな地域活動に参加している。

—本番に向けて、どのような思いで稽古に励んでいますか？

一緒に演じるのは、職業も年齢も多様な個性豊かなメンバーばかり。そんな仲間たちと出会い、共に舞台を作っているのは楽しみで仕方ありません。以前の演劇ワークショップで木野花さんに「演じるというのは、その場その状況を生きていること」だと教わりました。その言葉を肝に銘じて、今回の役もしっかりと自分に落とし込み、セリフを自分の言葉にできるように頑張ります。

公募区民：木田七海

阿波おどりの魅力、まちの人々の温かさを伝えられれば



木田七海

プロフィール：木田七海（きだ・ななみ） 平成15年杉並区生まれ。幼い頃から東京高円寺阿波おどりに親しんで育つ。小学1年生の時には自身が踊る姿が阿波おどりのポスターの写真に採用されたことも。

—今回の事業に応募したのはなぜですか？

高円寺生まれ、高円寺育ち。東京高円寺阿波おどりのお囃子に包まれて育ち、物心付いた時には自然と踊り手になっていました。東京高円寺阿波おどりと共に成長したと言っても大げさではありません。家族や親戚みんなですべて親しんできたものであり、当たり前のようにそばにある大きな

存在。だからこそ、コロナ禍で以前のように踊ることができなくなってしまったことを、とても残念に感じていました。そんな時、祖母が今回の公募を教えてくださいました。お芝居の経験はまったくなかったのですが、阿波おどりが好きな気持ちを伝え、楽しめたらいいなとオーディションに挑戦しました。合格となり、参加できることにとても感謝しています。

—演劇の稽古に初めて挑戦してみたいかですか？

普段なかなか関わる機会のない世代の方、いろんな人生経験を積まれた方と出会える貴重な機会になっていると感じています。演劇の経験がある方には「こんなことを意識して演じてみたらどうかな」などさまざまなアドバイスを頂き、とても勉強になっています。一方で、私自身は阿波おどりの経験者としての力を生かしていけたらいいなと思っています。

—今回演じることを通して、どんな思いを届けたいですか？

私自身、小さい頃は自分が踊ることを楽しんでいただけでした。でも次第に、踊ることで見ている人が笑顔になり、喜んでくれるのが東京高円寺阿波おどりのなだと気付きました。今回の舞台で、そんな魅力や楽しさを存分に伝えたいです。同時に、自分が生まれ育った、阿波おどりが受け継がれてきた高円寺というまちの空気感、まちの人々の温かさを感じてもらえるといいなと思います。

区制施行90周年記念事業
東京高円寺阿波おどり演劇
「高円寺が踊る」公演情報

日 時：10月13日(休)・14日(金)午後7時、
15日(土)午後1時・6時、16日(日)午後2時
場 所：座・高円寺（高円寺北2-1-2）
脚本・演出：池亀三太
費 用：無料

各200名程度（抽選） 特設サイト（右上2次元コード）から、9月19日までに申し込み
圖文化・交流課文化振興担当 協協力=NPO
法人劇場創造ネットワーク/座・高円寺、
NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会

紙面には掲載しきれなかった取材のこぼれ話も動画で紹介しています。

YouTubeで
配信中!

すぎなみピト
MOVIE

東京高円寺阿波おどり演劇「高円寺が踊る」の脚本家・池亀三太さんと公募区民のインタビューが動画でも楽しめます。右2次元コードからご覧ください。

杉並区公式チャンネル